

藤戸幸夫によるトーテムポール

6.6 メートルの高さのトーテムポールは、藤戸幸夫（1949 年生まれ）によって 2023 年に制作されました。これは、元館長の川村カ子ト（1893 -1977）を追悼するために、アイヌの芸術家である砂澤ビッキ（1931-1989）が 1979 年に制作した以前のトーテムポールのデザインを再現したものです。

オリジナルのトーテムポールは高さ 10 メートルで、2004 年に台風で倒壊するまで博物館の外に立っていました。砂澤ビッキはトーテムポールをデザインしましたが、共同制作となるよう、他のアイヌの木彫り職人たちに制作の協力を依頼しました。

オリジナルと新しいトーテムポールの両方に彫られたモチーフは、アイヌの精神文化を反映しています。最上部にはアイヌの村を守護する「カムイ」（神）であるフクロウが配置されています。その下には川村家の象徴である様式化されたシャチの背びれが彫られています。丸木舟には 2 つの重要な図像が収められており、山の「カムイ」を表すヒグマの頭部と、海の「カムイ」であるシャチが彫られています。藤戸の新作と共に、オリジナルのトーテムポールの写真も展示されています。